

令和7年度 第1回小矢部市特別職報酬等審議会会議録（要旨）

- 1 日 時 令和8年1月29日（木） 午後4時～午後5時13分
- 2 場 所 小矢部市役所 特別会議室
- 3 出席者 <審議会委員>
谷崎会長（委員の互選により）、府録委員（会長職務代理者）、
黒田委員、廣岡委員、舟本委員、前田委員
※大庭委員は欠席

<市長・事務局>
桜井市長（あいさつ及び諮問書の手交）
橋本総務部長、高田総務課長、高山課長補佐、細川課長補佐、
福永主査
- 4 会議公開の状況 公開
- 5 次第及び審議内容
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 会長の互選及び会長あいさつ
 - (3) 諮問書の手交
 - (4) 議事
 - ア 審議会の公開の決定
 - イ 会長職務代理者の選任
 - ウ 議員報酬の額の見直しについて（資料説明）
 - エ 諮問事項の意見交換
- 6 意見交換の概要
 - ・小矢部市の人口規模だと、市民1,740人に対して議員が1人という計算になる。他の自治体だと、市民2,000人に対して議員が1人。小矢部市は、10人くらいの議員数が妥当ではないか。議員報酬を引き上げることに反対ではないが、議員定数をもう少し考えるべきだった。
 - ・若い人に議員として出てもらうにはそれなりの議員報酬がないといけない。富山市よりも多くとは言わないが、砺波市より多くても良いと思う。議員報酬5万円の引き上げは現時点では賛成。議員定数は10人が適当なのではないかと考える。

- ・議員数については、人口規模からみると小矢部市は少し多いと感じている。今回の議員定数2人削減は、人口減少を踏まえると理解できる。議員は地区を代表するというより、小矢部市全体を見渡すことができ、行動・実行力があり、新しい政策提案ができる人になってほしい。
- ・議員報酬が少ないから議員のなり手が不足しているという説明に疑問を感じる。議員は他の仕事と両立をしてもよいのではないか。今回の議員報酬の引き上げが、議会運営や議員活動の時間的な拘束も含め、どのような問題があると分析して5万円と決定したのか聞いてみたい。しっかりとした説明がないと、議員報酬の引き上げは一般市民の理解を得られない。小矢部市は新庁舎建設をはじめ、複数の大型事業を抱えており、ここ数年は大変な財政難だと、市から説明されたことがある。なぜ今、議員報酬の引き上げなのか、率直に感じた。議員定数を削減するから議員報酬を引き上げるとするのは、自己都合に思える。
- ・議員はどのような仕事をしているのか活動を「見える化」するとともに、議員報酬を引き上げる代わりに議員の仕事をどのように改善するのか、セットで提案されるほうが、市民の理解が得られやすいのではないか。
- ・議員年金もなくなったのに、30年間、議員報酬の改定がなかったことが疑問である。これまではデフレで給料が上がらなかったというのは理解できる。その後、徐々に給料が上がり、一般企業ではここ3年で1割以上給料が上がっている。今後も1割程度上がると予測されている。議員報酬のみで生活している人は、退職後、国民年金だけで生活できるのかという疑問もある。
- ・年金について言えば、会社を経営しながら議員をしている場合、厚生年金に入ることになり、最終的な年金の受け取り方が違ってくる。それは制度上仕方のない話。議員報酬は、物価上昇などを踏まえると引き上げてもよいと思う。ただ、議員報酬以外に政務活動費を含めた総額での検討も必要でないか。基本的な議員報酬そのものを引き上げるのか、政務活動費を引き上げるのかといった判断もあり、どのような形がよいのか考える必要がある。先ほど意見にあったように、これからは地域の代表としての議員ではなく、小矢部市全体を見渡した仕事をしてほしいとなったとき、歳費のあり方はどのようにあるべきかということだ。
- ・職員の給料も上がっている。議員報酬だけで生活している人は少ないが、それなりの金額を支払って働いてもらうことは必要。県内の議員報酬の並びを見比べると5万円引き上げても普通ではないかと思う。ただ、議員定数を2人減らし、その分を引き上げるという説明なのであれば疑問だ。
- ・36万円が高いか安いと言われると、議員報酬だけで生活している人もいるので何とも言えない。30年間議員報酬の改定がないということで、幾らが正解かわからないが、生活費でもあり、引き上げなければならないという感覚を持ってこの会議に来た。ただ、帳尻合わせのような金額設定では駄目だ。選挙にな

ると地区から議員を出さなければならないと言っているが、手を上げる人がいない。地域のことは地域から出ている議員に頼ることが多い。議長や副議長であれば活動が見えるが、他の議員は何をしているのか活動が見えない。活動が見えるようにしたほうがよい。金額の議論だけでこの会議が終わるのは面白くない。

- ・歳費として月5万円引き上げるのは変わらないが、議員報酬の部分と政務活動費の部分に配分することもあり得る。
- ・地区の議員ということ言えば、市町村合併をした南砺市や砺波市では議員がいない地域もあり、そのような地域では地区振興会長が代表して行政との繋がりを持っているという話を聞いている。議員定数が減れば、議員がいない地区も出るだろう。議員には小矢部市全体のことを考えてもらい、地元のことは振興会長が行うといった役割分担がこれからは必要になっていくのではないかな。
- ・地域の細かい要望を行政に繋いでくれる人も必要かもしれないが、これからの議員は小矢部市全体を見据えて働くことが必要。議会の活動の「見える化」が必要。議会傍聴をしても、一般質問をしない議員もいる。他では活動をしていると思うが、議会で一般質問をすることが、市民に対して最もわかりやすい活動の一つだ。議員報酬の引き上げに対して、市民の理解を得るには、仕事の中身とセットで説明してほしい。
- ・議会の活動内容等を、何か文書（資料）で提供してほしい。